

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	総務常任委員会
委員名	中鉢和三郎, 加川康子, 法華栄喜, 佐藤弘樹, 氏家善男, 木内知子
日時	令和5年10月10日(火)
視察先	宮城県名取市
出席者(説明者)	菊地議長, 大澤議会事務局長, 小平企画部長, 山家企画部政策企画課長, 橘川企画部政策企画課政策係長

2. 視察内容

視察項目	給食費無償化の取組について
視察内容	<p>・実施に至った経緯</p> <p>現市長の平成28年1期目当選時における公約の中で、子育て・教育先進都市に向けた施策の一つとして、学校給食費の段階的無償化を掲げていた。</p> <p>平成30年度に群馬県安中市と群馬県富岡市に先進地視察を行い、平成31年4月からの実施に向けて検討していたが、熱中症対策として市内全小中学校にエアコン設置を優先したこともあり、見送った経過がある。</p> <p>その後、財源確保の見通しが立ち、令和2年4月から中学3年生を対象に実施するに至った。</p> <p>・取組内容</p> <p><無償化対象学年></p> <p>令和2年4月～令和5年3月：中学3年生</p> <p>令和5年4月～：中学1～3年生</p> <p><無償化の手法></p> <p>①市内の公立中学校に在籍する中学生の学校給食費を無償(免除)とする。</p> <p>②市内に住所を有し、かつ名取市立学校以外の学校に在籍する中学生の学校給食費を補助金(5万円まで)として市が保護者へ支出する。</p> <p>・財源について</p> <p>一般財源から支出している。スクールバス契約の見直しや、給食センターを15年契約のPFI方式にしたことで財源を捻出した。また、捻出した財源だけでは足りなかったが、教育部の予算とは切り離して考え、教育部の事業に影響を与えないように教育費を減額せずに取り組んでいる。</p> <p>・令和5年度予算</p> <p>人件費17,045千円, その他事務12,407千円, PFI事業関連経費443,629千円, 賄材料費(中学1～3年生分)142,636千円</p> <p>・少子化対策としての効果</p> <p>費用対効果を直ちに数字で示せる施策ではないため、現時点では効果として見て取れるものはない。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>問：市民から無償化してほしいとの要望はあったのか。</p> <p>答：そのような声はなかった。</p> <p>問：憲法に規定されている義務教育の無償と給食費の無償化の関係をどのように整理されているか。</p> <p>答：憲法があるから給食費を無償にしたわけではない。</p> <p>問：医療費より給食費の方が最初だったのはなぜか</p> <p>答：公約を優先したため、給食費から始めた。</p> <p>問：なぜ中学3年生からスタートしたのか。</p>

	<p>答：名取市に住み続けてくれれば、必ず中学3年生になるため。</p> <p>問：小学生の給食費は今後無償にする予定はあるのか。</p> <p>答：小学生部分については、現在は白紙状態である。財源として半分ぐらいは確保してるが、給食費以外の事業も考えているため慎重に進めていきたい。</p> <p>問：地産地消は推進されているか。</p> <p>答：地場産品は量の確保や価格の面で難しく、提供数は少ない。</p>
<p>考 察</p> <p>【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>名取市は平成22年から市内小中学校全ての児童生徒に、給食センター1箇所から給食を提供しているため、地元の食材の調達には時間やコストもかかるということであった。そのため、地産地消の観点から考えると、本市のように小規模な給食センターから給食を提供することで、子どもたちの食育が図られるのではないかと感じた。</p> <p>一方で名取市は第2子以降など、子どもが複数いる世帯を無償化にしているわけではなく、中学3年生全体から始め、現在は中学生全員が無償化になっており、社会的公平性が図られていた。</p> <p>まだ始まったばかりの事業であるため、現時点での少子化対策としての効果は見て取れるものはないということであったが、給食を無償化する際には、子どもたちの学びや教育への効果を考える必要があると感じた。また、無償化がもたらす効果を把握するための検証手段も検討すべきであると考えている。</p>

以 上